国内外のNGO（非政府組織）が参加し、県内で開催中の「'99おかやま国際貢献NGOサミット」（国際貢献トピア岡山構想を推進する会主催）の交流レセプションが11日、岡山市・奉還町商店街で開かれ、各国のサミット出席者と地域住民がイベントを通じて交流を深めた。

奉還町商店街で開かれたおかやま国際貢献NGOサミットの交流レセプション

岡山・奉還町商店街

6ヵ国の屋台 人形劇楽しむ

今年で六回目となるサミットのレセプションはこれまで、ホテルなど関係者のみで行われていたが、NGOの活動を一般市民に身近に理解してもらうため、今回初めて商店街の会場に開かれた。

会場にはベトナムやトルコなど六カ国の屋台が並んだほか、もちつきや邑久町の喜之助人形劇など日本文化を紹介するイベントが催され、住民や買い物客らが国際交流のひとときをにぎやかに楽しんだ。同商店街振興組合の岸卓志理事(四九)は「外国人留学生らとの触れ合いを商店街の活性化に生かしていきたい」と話していた。

開会に先立ち、若草保育園（同市町）の園児が同商店街を鼓笛隊パレード。特設ステージではハンドベルを演奏し、各国の参加者を歓迎した。続いて、NGOを代表してボリビア共和国のボルダ・ブラクット・ルスカル・レネ氏が「地元のみなさんとの交流を通じて、国際協力の在り方をともに考えたい」とあいさつした。

姉妹校推進会議 おかやま国際貢献NGOサミット 交流レセプション

海外での交流活動 体験や意義を報告

小中高生

「'99おかやま国際貢献NGOサミット」は十一日、国際交流センター（岡山市奉還町）で、子どもの国際交流などについて議論が交わされた。

「国際姉妹校推進会議」では、県内の各小中高校が海外の学校と行っている交流活動について報告。フィリピンの小学校にリコーダーを贈っている加茂川町立加茂川中からは、三年生の喜田知恵子さん(一五)ら三人が参加。訪問の様子をスライドを使いながら、「一緒に遊んでいるうちに肌の色や言葉の違いは忘れていたと交流の意義を述べた。

また、二〇〇一年八月には海外の小学校十校から生徒を招いて「子どもサミット」を開催する計画も提案され、海外の参加者からは「どうしたら自分の国の子どもが参加できるか」などと質問が相次いだ。海外NGOや日本の宗教関係者のNGOなど、各団体の活動を報告した「ワークショップ」では、政府との協力関係やNGO同士の連携などについて活発に意見を交換した。

さらに、岡山県に拠点を持つNGO十四団体がパネルや写真などで活動を紹介する「NGOエクスポ」も行われた。

「国際姉妹校推進会議」に参加した加茂川町立加茂川中の生徒の活動報告に耳を傾ける国内外のNGO関係者

取材メモ

国際交流の広がり実感

▽…「おかやま国際貢献NGOサミット」が開かれるようになって、今年で六年目を迎えた。この間を振り返ってみると、阪神淡路大震災などを経て、「ボランティア」や「NGO」といった言葉に対する認識は各段に深まったのではないだろうか。国際的な活動をする日本のNGOも、国連によると約八百団体まで増えているという。

▼…サミットでは今回、初めて岡山市の奉還町商店街と協力して、海外からの参加者が屋台を出すなどして交流を深めた。これは、岡山国際交流センターが同地区にできて以来、留学生と接する機会が増えた商店主らの積極的な働きかけで実現した。「世界を相手に」と肩ひじ張るばかりではなく、身近な生活の中で国際交流が広がっていることを感じさせる。

▽…参加者の一人は「二十一世紀はボランティアの時代」と言った。何も紛争や災害の現場に駆け付けるだけに限らない。手紙を書くこと、絵本を贈ること、きっかけは何でもいい。日本に約八百あるというNGOのうち、約一割は岡山が本部という。今回のサミットが、地域の国際交流をさらに活性化する契機となるよう望みたい。

（社会部・日向一宇、三上絵里）